

## 海自の水中処分母船が沼津で一般公開



一般公開の様子



水中処分員による説明

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は8月23日（土）と24日（日）、沼津港（沼津市）で海上自衛隊水中処分母船3号の一般公開を行った。

同港に海自の艦艇が入港するのは、2023年10月の掃海艦「ひらど」以来、約2年ぶり。両日とも朝から市民や観光客が見学のための列をつくり、2日間で1360人が訪れた。

同船は、水中の爆発物処理などを行う水中処分員の支援を任務としており、潜水用器材や揚収用クレーンなどを装備している。見学者は艦橋や甲板を回り、船が航行するための装置や水中処分員の装備などを見学した。

船内では各所で乗員が説明を行ったり、らっば吹奏の展示をしたりして自衛隊の任務などを紹介し、見学者は「この船には何人くらい乗っているんですか」「船の生活で一番楽しいことはなんですか」などと興味深く質問していた。

岸壁では静岡地本が広報ブースを設置し、迷彩服試着体験やアンケート、自衛官採用制度説明などを行った。夏休み期間中ということもあり、多くの家族連れが楽しみながら自衛隊に親しんだ。

静岡地本は、今後も多種多様な艦艇の一般公開を行い、海上自衛隊の認知度向上を図っていく。

## 令和7年度静岡県総合防災訓練に参加 関係機関との連携を強化



県災害対策本部



西部地域局

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は8月27日（水）、静岡県庁（静岡市）等で行われた令和7年度静岡県総合防災訓練の本部運営訓練に参加した。

今回の訓練は、南海トラフ沿いで巨大地震が発生し、静岡県内で震度7〜6弱の揺れを観測。大津波も襲来し、発災後24時間が経過した想定で行われた。

静岡地本は地震発生後、県庁と県内4カ所に設置された各方面本部へ連絡員として隊員を派遣し、県や各市町、関係機関と広域的な災害応急対策活動を円滑に実施するため、情報集約・共有、部隊の活動調整、必要な要請に係る手順について確認した。

また、道路啓開やドローンの活用、空路・海路による人員・物資輸送なども検討され、訓練に参加した陸海空自衛隊がそれぞれの任務の円滑化や連携強化に努めた。

静岡地本は、今後も国民を守るべく県や自治体と連携し災害に備えていく。